

つくばで輝く研究者

ミタロ オスカー ウィテレさん

Oscar Witere Mitalo

日本学術振興会外国人特別研究員



ケニア出身。2013年ケニア・ジョモ・ケニヤッタ農工大学卒業。20年岡山大学大学院環境生命科学研究科修了。博士（農学）の学位を取得。21年11月から現職。筑波大学でトマトの低温応答と収穫後低温障害の分子生理機構解明に関する研究に取り組んでいる。

るコメントをモチベ

を改善して社会に貢献したい。発表した論文に対して、世界中から寄せられるコメントをモチベ

《野菜や果物の収穫後ロス改善を研究》



実験中

ケニア・アフリカ地域の一部における慢性的な食料不足の因に、野菜や果物など園芸作物の収穫後ロスが生産量の30〜50%と高いことが挙げられる。これを改善するために、農作物の種類による適切な温度管理やその技術の構築など品質保持技術の向上のための研究にまい進する。一果実研究のモデル植物であるトマトを使って、品質を落とさずに長期間保存する仕組みを研究しています。研究を通して、園芸作物の収穫後ロスを改善して社会に貢献したい。発表した論文に対して、世界中から寄せられるコメントをモチベ

農産物の食品ロス改善に貢献

た業績を上げており、こ

の政府開発援助（ODA）を活用し、国際協力機構（JICA）の無償資金技術協力により設立され、特に農学に秀でた業績を上げており、こ

シヨンに研究に勤しんでいる。
《大学進学率10%のケニアで地方から国立大学に進学》
ケニアの首都ナイロビからバスで8時間ほどの場所にあるカメガバ出身。ケニアで唯一の熱帯雨林の保護区を有する自然豊かな村で生まれ育った。5人兄弟の末っ子でサッカーが大好きな少年だったが、地域で初めて大学進学を果たした長男の影響もあり勉学にも力を入れた。裕福な家庭ではなかったため第一希望の進学校への入学はかなわず、仕事を掛け持ちして授業料を捻出してくれた母の職場のうちの二つであった高校まで片道5kmの道のりを徒歩で通学。難関の国家統一試験に合格し、国の支援を受けて国立のジョモ・ケニヤッタ農工大学に進学。同大学は日本の政府開発援助（ODA）を活用し、国際協力機構（JICA）の無償資金技術協力により設立され、特に農学に秀でた業績を上げており、こ

つくばの生活

ここで研究者としての礎を築いた。卒業後に来日し岡山大学大学院で博士号を取得。若手の優秀な外国人研究者を対象にした日本学術振興会外国人特別研究員として筑波大学で研究を進めている。



岡山で出会った日本人の妻と3才、1才の男児の4人で2020年4月からつくばで暮らす。つくばは外国人が多く、英語が通じる環境で住みやすいです。日本食は何でも食べられますが、特にコシの強い讃岐うどんが好み。コロナ禍であまり外出していませんが、家の近くに畑を借りて家庭菜園を楽しむなどつくばでの生活を楽しんでいます。
幼少期に描いた「世界中の人に役に立てる人になりたい」という夢をつくばからかなえる日も近い。

趣味のサッカー観戦